

機能	利点
.ZBD ファイルのインポート	レンズ設計データをネイティブな CAD プラットフォームに素早くかつ完全に変換できるため、時間を削減し、エラーを回避することができます。
.ZBD ファイルの更新	OpticsBuilder を使用することにより、光学部品と機械部品の両方を伴うアセンブリにおいて、CAD ユーザは更新された光学設計ファイルを以前の作業をやり直すことなく、.ZBD ファイルにインポートすることができます。
.ZBD ファイルのエクスポート	製品間を移動する際は、設計が完成していることを確認してください。.ZBD ファイルをエクスポートすることで、ユーザは OpticStudio と OpticsBuilder の両方で光学メカ設計にアクセスすることができます。
オプトメカ パッケージ解析 (OPA)	CAD ユーザーは、光が光学系のみを伝搬する場合と光学系とメカ系の両方を伝搬する場合とで、光学性能の違いをシミュレーションすることができます。製品の製造準備が整うと、OPA から機械部品が光学性能に影響を与えるかどうかについて役立つ情報を取得できます。光がメカ アセンブリの面とどのように作用するかを解析することで、CAD ユーザーは早期にエラーを発見し、光学設計者とのやり取りを減らして、コストのかかる試作品の構築を避けることができます。
計算領域	シミュレーションを高速化するために機械部品を除外し、特定の部品を分析して特定の部品なしで性能を決定できるようになります。
境界光線	光路のガイドラインが正確に視覚化されるため、より速くメカ パッケージの設計を始めることができます。
光線アニメーション	光源から光学メカを通過してディテクタに到達する光線を観察することで、パッケージングの影響を理解することができます。問題が発生した順に、メカ系に変更を加えることが可能です。
境界光線	境界光線が光学メカ系をどのように通過するのを見ることで、システム性能をひと目で理解することができます。見れる光線は、主光線とマージナル光線、XY ファン光線、主光線とリング光線です。
面のプロパティを適用する	機械部品の反射特性の正確な描写を確認することで、より正確に実世界のモデル (実際の試作品) を表すシミュレーション結果を表示します。

参照形状の作成	光学部品のクリア アパチャー、曲率中心、面の頂点、光軸などのデータを参照することで、光学的な情報に基づいたメカ設計が可能になります。
マウント エッジの追加	CAD プラットフォーム上でレンズ マウントに用いるエッジ部分を追加することで、光学部品の保持性を改善します。
折り返しミラーの追加	CAD ユーザが既存の光学系に折り返しミラーを追加することで、空間的な制約に対応できます。CAD プラットフォームで折り返しミラーを追加できるため、光学設計とメカ設計を行き来して折り返しミラーの位置を決定する必要がありません。
光学系の編集権限	光学エンジニアが設定すれば、CAD ユーザーがネイティブな CAD プラットフォーム上で光学設計を編集できるようになりました。編集機能には、空間内での光学系の移動、ノンシーケンシャルの光学プロパティの変更、ならびにレンズ形状の変更が含まれます。
結果ウィンドウ	CAD ユーザは、CAD 環境内に再現された忠実な光学設計を用いて、機械部品の影響を簡単に確認できます。
レンズ図面の生成	CAD ユーザは OpticsBuilder のボタン 1 つで起動する自動図面ツールを用いることで、ISO 準拠の光学図面を共有できます。
ディテクタ ビューア	ユーザはディテクタのより詳細な情報を確認できます。例えば、各ディテクタのピーク照度、総パワー、ヒット光線数です。加えて、ディテクタ (極) を含む OpticsBuilder に搭載されたディテクタで、インコヒーレント放射照度以外のデータを見ることができます。ユーザはディテクタ ビューアの画像を一般的な画像ファイルフォーマットで保存し、簡単に共有できます。
システム設定	高精度な設定、.ZBD ファイルに含まれる設計の設定、迷光解析におけるカスタマイズした高度な設定を定義可能です。
光学形状プロパティ	CAD プラットフォームの質量特性セクションから、質量のレポートを確認できます。